

2019 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

学校名	阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科		85 単位	9 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校事務室にて公開
-----------

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

学校名	阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園 HP にて公開 <a href="http://www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html">www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
(備考) 2020年4月1日までに、複数の学外者である理事の選任を確実に実施する			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
3月	年度末の授業計画の見直し 教務主任が教育課程の編成、教育計画・授業計画を立案 各授業の担当教員がシラバスを作成
8月	教務会において主に前期分の授業計画(シラバス)の評価 「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検 授業年次・時期の検討
翌2月	教務会において主に後期分の授業計画(シラバス)の評価 「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検 授業年次・時期の検討
3月	教務で取りまとめ、学生便覧に授業概要を掲載
4月	新入生に授業概要を配布
4月～	講義開始時、授業計画を配布
授業計画書の公表方法	学生便覧に掲載・毎年4月新入生に配布 学校事務室にて公開
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
<p>単位認定は、講義、臨地実習等に必要な時間の取得状況と授業計画に則った学修成果の評価（試験、学習報告等）により行っている。</p> <p>授業科目の評価は試験やレポート等で行い、評価を点数換算する。</p> <p>優（80点以上）、良（70点から79点）、可（60点から69点）、不可（60点未満） 可以上を合格とし、合格者には所定の授業科目の単位認定を行う。</p> <p>大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者については、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>履修科目の成績評価を点数化、全科目の合計点の平均を算出(100点満点で点数化)し、順位付けする          学生には、自らの得点と順位を記したものを配布</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>学校 HP にて公開  <a href="http://www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html">www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>教育理念に基づき、以下の卒業時の到達目標を身につけた者に卒業を認定する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人間を理解し、生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 命を尊ぶことができる。</li> <li>(2) 自分自身を大切にすることができる。</li> <li>(3) 自己および他者を、ありのまま受止めることができる。</li> </ol> </li> <li>2) より良い人間関係を築く能力を養う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 豊かな表現力を身につけることができる。</li> <li>(2) 対象との間に信頼関係を築くことができる。</li> </ol> </li> <li>3) 看護の対象である人間を統合的に理解する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。</li> <li>(2) 対象者を発達段階から捉えることができる。</li> <li>(3) 対象者をあらゆる健康の段階から捉えることができる。</li> </ol> </li> <li>4) 看護の知識と技術を身につけ、さらにこれを活用し得る能力を養う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個別的な看護が実践できる。</li> <li>(2) 科学的根拠に基づいた看護を実践できる。</li> <li>(3) 発展的思考を身につけることができる。</li> </ol> </li> <li>5) 保健医療福祉チームの一員として看護を実践し、協働活動できる能力を養う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会の変化に関心を持ち、看護に対するニーズを理解できる。</li> <li>(2) 保健医療福祉領域の中で看護師の役割を理解できる。</li> <li>(3) 他職種との協働活動ができる。</li> </ol> </li> <li>6) 自己の看護観を育み、専門職業人としての態度を養う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 看護に対する見方、考え方を明らかにできる。</li> <li>(2) 看護倫理、法的基準に基づき看護が実践できる。</li> <li>(3) 主体的に自己の課題を見出し、継続して研究する姿勢を身につける。</li> </ol> </li> </ol> <p>併せて、講義、臨地実習等に必要な出席時間数と授業科目の評価により、単位認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 出席時間数が授業時間数の3分の2以上</li> <li>(2) 授業科目及び臨地実習の評価              優(80点以上)、良(70点~79点)、可(60点~69点)、不可(60点未満)              可以上を合格とし、合格者に授業科目の履修認定を行う</li> <li>(3) 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者は、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる              出席日数の3分の2以上を満たし、すべての授業科目の単位認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て卒業を認定する。</li> </ol>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>学校 HP にて公開  <a href="http://www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html">www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

学校名	阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
収支計算書又は損益計算書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
財産目録	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
事業報告書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
監事による監査報告（書）	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
医療		看護専門課程	看護学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類		
				講義	実習	
3年	昼	3090時間／98単位		2055時間／75単位	1035時間／23単位	
				3090時間／98単位		
生徒総定員数		生徒実員	うち 留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人		121人	0人	12人	47人	59人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要）	
3月	年度末の授業計画の見直し 教務主任が教育課程の編成、教育計画・授業計画を立案 各授業の担当教員がシラバスを作成
8月	教務会において主に前期分の授業計画（シラバス）の評価 「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検 授業年次・時期の検討
翌2月	教務会において主に後期分の授業計画（シラバス）の評価 「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検 授業年次・時期の検討
3月	教務で取りまとめ、学生便覧に授業概要を掲載
4月	新入生に授業概要を配布
4月～	講義開始時、授業計画を配布

<p>成績評価の基準・方法</p>
<p>(概要)</p> <p>単位認定は、講義、臨地実習等に必要時間の取得状況と授業計画に則った学修成果の評価（試験、学習報告等）により行っている。</p> <p>授業科目の評価は試験やレポート等で行い、評価を点数換算する。</p> <p>優（80点以上）、良（70点から79点）、可（60点から69点）、不可（60点未満）</p> <p>可以上を合格とし、合格者には所定の授業科目の単位認定を行う。</p> <p>大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者については、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>教育理念に基づき、以下の卒業時の到達目標を身につけた者に卒業を認定する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人間を理解し、生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養う。       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 命を尊ぶことができる。</li> <li>(2) 自分自身を大切にすることができる。</li> <li>(3) 自己および他者を、ありのまま受止めることができる。</li> </ol> </li> <li>2) より良い人間関係を築く能力を養う。       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 豊かな表現力を身につけることができる。</li> <li>(2) 対象との間に信頼関係を築くことができる。</li> </ol> </li> <li>3) 看護の対象である人間を統合的に理解する。       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。</li> <li>(2) 対象者を発達段階から捉えることができる。</li> <li>(3) 対象者をあらゆる健康の段階から捉えることができる。</li> </ol> </li> <li>4) 看護の知識と技術を身につけ、さらにこれを活用し得る能力を養う。       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個別的な看護が実践できる。</li> <li>(2) 科学的根拠に基づいた看護を実践できる。</li> <li>(3) 発展的思考を身につけることができる。</li> </ol> </li> <li>5) 保健医療福祉チームの一員として看護を実践し、協働活動できる能力を養う。       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会の変化に関心を持ち、看護に対するニーズを理解できる。</li> <li>(2) 保健医療福祉領域の中で看護師の役割を理解できる。</li> <li>(3) 他職種との協働活動ができる。</li> </ol> </li> <li>6) 自己の看護観を育み、専門職業人としての態度を養う。       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 看護に対する見方、考え方を明らかにできる。</li> <li>(2) 看護倫理、法的基準に基づき看護が実践できる。</li> <li>(3) 主体的に自己の課題を見出し、継続して研究する姿勢を身につける。</li> </ol> </li> </ol> <p>併せて、講義、臨地実習等に必要出席時間数と授業科目の評価により、単位認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 出席時間数が授業時間数の3分の2以上</li> <li>(2) 授業科目及び臨地実習の評価       <p>優（80点以上）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（60点未満）</p> <p>可以上を合格とし、合格者に授業科目の履修認定を行う</p> </li> <li>(3) 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者は、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる</li> </ol> <p>出席日数の3分の2以上を満たし、すべての授業科目の単位認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て卒業を認定する。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>担任が面談を実施、生活状況・学習状況を把握した上で指導している。</p> <p>1年次より、カリキュラム外で国家試験対策を講じている。</p> <p>学生・教員で国家試験対策委員を組織し、学年を超えた相互学習を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
38人 (100%)	0人 (0%)	38人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 病院・診療所			
（就職指導内容） 就職セミナーの開催、就職活動に向けたマナー研修の実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 看護師国家試験受験資格取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
119人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
看護学科	250,000円	450,000円	350,000円	その他の内訳 施設設備充実費：250,000円 実習費：100,000円
修学支援（任意記載事項）診療費補助制度				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
学校HPにて公開
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）

自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。  
 主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど  
 評価委員の定数：5名以上  
 評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、  
 地域住民、教育関連有識者  
 評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。  
 評価結果ならびに改善策の公表については4月を目途に本校ホームページ  
 (www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html) で公表予定。  
 また学校関係者評価の責任者は学校関係者評価委員会の委員長とする。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校関係者評価を確実に実施し、 2020年度からその結果を公表する ために委員の選任を行う。		
学校関係者評価結果の公表方法		
2020年度から評価を確実に公表する		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

www.hanna-kango.ac.jp

## 看護学科教育課程

教育内容		授業科目	単位数	時間数	実務経験	教育内容	授業科目	単位数	時間数	実務経験	
基礎分野	科学的思考の基盤	国語表現法	1	15		専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論・保健論	1	30	有
		論理的思考	1	30				成人臨床看護論Ⅰ	1	30	有
		生活科学	1	30				成人臨床看護論Ⅱ	1	30	有
		情報科学	1	30				成人臨床看護論Ⅲ	1	30	有
	人間と生活・社会の理解	哲学	1	30				成人臨床看護論Ⅳ	1	30	有
		心理学	1	30			成人臨床看護論Ⅴ	1	30	有	
		社会学	1	30			老年看護学	老年看護学概論・保健論	1	30	有
		教育学	1	30				老年臨床看護論Ⅰ	1	30	有
		文化人類学	1	30				老年臨床看護論Ⅱ	1	30	有
		生命倫理	1	15				老年臨床看護論Ⅲ	1	15	有
		人間関係論	1	30			小児看護学	小児看護学概論・保健論	1	30	有
		英語	1	30				小児臨床看護論Ⅰ	1	30	有
	英会話	1	30		小児臨床看護論Ⅱ			1	30	有	
小計	13	360	0	小児臨床看護論Ⅲ	1	15		有			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	60	有	専門分野Ⅰ	母性看護学	母性看護学概論・保健論	1	30	有
		解剖生理学Ⅱ	2	60	有			母性臨床看護論Ⅰ	1	30	有
		生化学	1	30	有			母性臨床看護論Ⅱ	1	30	有
		栄養学	1	15	有			母性臨床看護論Ⅲ	1	15	有
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30	有			精神看護学	精神看護学概論・保健論	1	30
		病理学	1	30	有		精神臨床看護論Ⅰ		1	30	有
		疾病論Ⅰ	1	30	有		精神臨床看護論Ⅱ		1	30	有
		疾病論Ⅱ	1	30	有		精神臨床看護論Ⅲ		1	15	有
		疾病論Ⅲ	1	30	有		臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90	有
		疾病論Ⅳ	1	30	有			成人看護学実習Ⅱ	2	90	有
		疾病論Ⅴ	1	30	有			成人看護学実習Ⅲ	2	90	有
		疾病論Ⅵ	1	30	有			老年看護学実習Ⅰ	2	90	有
	治療総論	1	30	有	老年看護学実習Ⅱ			2	90	有	
	薬理学	1	30	有	小児看護学実習			2	90	有	
	社会福祉論	2	30	有	母性看護学実習			2	90	有	
	保健科学	2	30	有	精神看護学実習		2	90	有		
	健康支援と社会保障制度	運動科学	1	30	有		小計	38	1320	38	
関係法規		1	30	有	統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	30	有	
小計		22	585	22			在宅看護実践論Ⅰ	1	30	有	
在宅看護実践論Ⅱ	1	30	有								
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30		有	在宅看護実践論Ⅲ	1	15	有	
		基礎看護技術論Ⅰ	1	30		有	看護の統合と実践	看護の統合と実践概論	1	30	有
		基礎看護技術論Ⅱ	1	30		有		看護の統合と実践論Ⅰ	1	30	有
		基礎看護技術論Ⅲ	1	30		有		看護の統合と実践論Ⅱ	1	30	有
		生活援助技術論Ⅰ	1	30		有		看護の統合と実践論Ⅲ	1	15	有
		生活援助技術論Ⅱ	1	30		有	臨地実習	在宅看護論実習	2	90	有
		生活援助技術論Ⅲ	1	30		有		看護の統合と実践実習	2	90	有
		診療援助技術論	1	30	有	小計	12	390	12		
		臨床看護総論	1	30	有	総計	98	3090	85		
		看護研究概論	1	30	有		小計	13	435	13	
	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	有							
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	有								
小計	13	435	13								

客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要について

客観的な指標の算出方法
履修科目の成績評価を点数化、全科目の合計点の平均を算出（100点満点で点数化）し、順位付けする 学生には、自らの得点と順位を記したものを配布

学科名	看護学科	学年	学生数	
成績の分布				
指標の数値	～70点	70.1～80点	80.1～90点	90.1～100点
人数				
下位 1/4 に該当する人数      人				
下位 1/4 に該当する指標の数値      点以下				

以上

## 卒業の認定に関する方針について

教育理念に基づき、以下の卒業時の到達目標を身につけた者に卒業を認定する

- 1) 人間を理解し、生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養う。
  - (1) 命を尊ぶことができる。
  - (2) 自分自身を大切にすることができる。
  - (3) 自己および他者を、ありのまま受止めることができる。
- 2) より良い人間関係を築く能力を養う。
  - (1) 豊かな表現力を身につけることができる。
  - (2) 対象との間に信頼関係を築くことができる。
- 3) 看護の対象である人間を統合的に理解する。
  - (1) 対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。
  - (2) 対象者を発達段階から捉えることができる。
  - (3) 対象者をあらゆる健康の段階から捉えることができる。
- 4) 看護の知識と技術を身につけ、さらにこれを活用し得る能力を養う。
  - (1) 個別的な看護が実践できる。
  - (2) 科学的根拠に基づいた看護を実践できる。
  - (3) 発展的思考を身につけることができる。
- 5) 保健医療福祉チームの一員として看護を実践し、協働活動できる能力を養う。
  - (1) 社会の変化に関心を持ち、看護に対するニーズを理解できる。
  - (2) 保健医療福祉領域の中で看護師の役割を理解できる。
  - (3) 他職種との協働活動ができる。
- 6) 自己の看護観を育み、専門職業人としての態度を養う。
  - (1) 看護に対する見方、考え方を明らかにできる。
  - (2) 看護倫理、法的基準に基づき看護が実践できる。
  - (3) 主体的に自己の課題を見出し、継続して研究する姿勢を身につける。

併せて、講義、臨地実習等に必要な出席時間数と授業科目の評価により、単位認定を行う。

- (1) 出席時間数が授業時間数の3分の2以上
- (2) 授業科目及び臨地実習の評価  
優(80点以上)、良(70点~79点)、可(60点~69点)、不可(60点未満)  
可以上を合格とし、合格者に授業科目の履修認定を行う
- (3) 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者は、既修得した単位が  
当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる

出席日数の3分の2以上を満たし、すべての授業科目の単位認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て卒業を認定する。

以上

(1) 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

授業科目	看護学概論	年	1年次	単位	1単位	担当	青木 千鶴香
		次	前期	時間	30時間	担当者の実務経験 有 (看護師)	

## 1. 教授概要

- 1) 看護学とはいかなる学問であるかの導入科目であり、看護学で追究する事象は何かへの問いの視点を多角的に学ぶ。各自が看護・看護学への取り組みの視点を得ることが目標である。
- 2) 看護観を構築する基礎的能力を育成する。

## 2. 授業計画

1. 看護とは何か
2. 看護の対象としての人間
3. 看護の提供者
4. 看護の提供のしくみ
5. 広がる看護の活動領域

3. 評価方法      筆記試験・グループワークへの参加状況・レポート

4. テキスト      系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(1)看護学概論 医学書院

5. 参考図書      必要時授業で紹介する

授業科目	基礎看護技術論Ⅱ	年次	1年次	単位	1単位	担当	磯垣 純子
		次	後期	時間	30時間	担当者の実務経験 有 (看護師)	

### 1. 教授概要

看護実践の基礎となる共通基本技術について教授する。

### 2. 授業計画

<p>1. 看護過程 2. 教育・指導</p>
-----------------------------

3. 評価方法 筆記試験・レポート

4. テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ基礎看護学② 医学書院

5. 参考図書 看護過程を使ったヘンダーソンの看護論の実践 ニューヴェルヒロカワ  
ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト  
ニューヴェルヒロカワ

授業科目	生活援助技術論Ⅲ	年次	1年次	単位	1単位	担当	竹本 可予
		次	前期	時間	30時間	担当者の実務経験 有 (看護師)	

### 1. 教授概要

あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎的援助技術について、知識・技術を教授する。

### 2. 授業計画

<p>清潔・衣生活</p>
---------------

3. 評価方法 筆記試験・課題レポート・授業（演習）に取り組む態度  
ケリーパッドでの洗髪の実験  
全身清拭（足浴、寝衣交換も含む）の実験

4. テキスト 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）

5. 参考図書 必要時授業で紹介する

授業科目	成人看護学 概論・ 保健論	年	1年次	単位	1単位	担当	磯垣 純子
		次	後期	時間	30時間	担当者の実務経験 有 (看護師)	

## 1. 教授概要

1. 成人期にある人間の身体的・精神的・社会的特徴を理解すると共に、価値観や生活背景が、それらの特徴に影響を及ぼすことを教授する
2. 成人期の発達課題・生活習慣等と健康障害の関連に触れ、健康問題となる要因を分析する能力を養う

## 2. 授業計画

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人看護の目標と機能</li> <li>2. 成人看護の対象の特性</li> <li>3. 成人期の健康問題</li> <li>4. 成人期の保健活動</li> </ol>
--

3. 評価方法 筆記試験 (70点) プレゼンテーション (10点)  
ポートフォリオ (20点) 合計：60点以上で合格

## 4. テキスト

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院

5. 参考図書 必要時授業で紹介する

授業科目	成人臨床看護論Ⅲ	年	2年次	単位	1単位	担当	大森 かほり
		次	前期	時間	30時間	担当者の実務経験 有 (看護師)	

### 1. 教授概要

日常生活行動に障害をもっている対象を理解し、残存機能を生かした機能回復を図り、社会復帰に向けて QOL を見定めた自立の支援方法について教授する。

### 2. 授業計画

1. 障害を持った対象や家族を理解
2. 機能回復に向けての段階的な人の援助の理解
3. 運動器疾患患者の看護
4. 演習

### 3. 評価方法 筆記試験・レポート 授業態度

### 4. テキスト

ヌーヴェルヒロカワ 成人看護学 リハビリテーション看護論 第3版  
 医学書院 成人看護学総論 成人看護学⑦ 脳・神経  
 医学書院 運動器 成人看護学⑩

授業科目	老年看護学 概論・ 保健論	年 次	1年次	単位	1単位	担当	大池 秀子
			後期	時間	30時間		

### 1. 教授概要

1. 老年期の対象の特徴を理解し、老年看護の目的と意義について教授する。
2. 高齢者をとりまく社会のシステムを理解し、看護の役割について教授する。

### 2. 授業計画

1.	老年期の対象の理解
2.	高齢化社会の特徴
3.	高齢者の保健・医療・福祉
4.	老年看護の機能
5.	老年看護の目標
6.	老年看護の原則

### 3. 評価方法 出席状況 授業参加状況 課題レポート 終講試験

### 4. テキスト

医学書院 系統別看護講座 専門分野Ⅱ 「老年看護学」「老年看護 病態・疾患論」  
他 (随時紹介)

授 業 科 目	母性臨床看護論Ⅱ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	竹本 可予
		次	後期	時 間	30時間	担当者の実務経験 有 (看護師)	

## 1. 教授概要

1. 妊娠、分娩、産褥期および新生児期を通して、母子の健康の保持・増進・回復をめざした看護について学ぶ。
2. 妊娠、分娩、産褥期および新生児期の異常について理解し、母子に応じた看護の方法を学ぶ。

## 2. 授業計画

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の経過と看護</li> <li>2. 分娩期の経過と看護</li> <li>3. 産褥期の経過と看護</li> <li>4. 新生児の生理と看護</li> <li>5. 妊娠、分娩、産褥、新生児期の異常と看護</li> </ol>
--

## 3. 評価方法 課題レポート・演習《妊婦ジャケット装着による校内の日常生活体験》 2人1組になって指定項目に従って実施

- 1) 妊婦の生活体験：掃除・洗濯・ベッドメイキング・新生児を抱き上げる。
- 2) 育児体験人形を用いて育児を経験する。

## 4. テキスト

母性看護学各論(医学書院)      母性看護学概論(医学書院)

授業科目	精神臨床看護論Ⅲ	年次	2年次	単位	1単位	担当	大森 かほり
		次	後期	時間	15時間	担当者の実務経験 有 (看護師)	

### 1. 教授概要

代表的な精神障害者事例を通して看護過程を展開し、知識の統合と看護実践する能力を養う。

### 2. 授業計画

精神看護の事例展開（統合失調症）

### 3. 評価方法 課題レポート

最終提出期限に遅れると減点とする。

- ・提出日内5点減点、1日遅れるごとに5点減点
- ・不足あれば3点ずつ減点とする。

### 4. テキスト

メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護  
看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 湯槇ます・小玉香津子訳  
看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践  
ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト

### 5 参考図書

はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程  
事例でわかる看護理論を看護過程に活かす本  
精神看護学 学生—患者のストーリーで綴る実習展開

授業科目	在宅看護概論	年次	2年次	単位	1単位	担当	大池 秀子
		次	前期	時間	30時間	担当者の実務経験 有 (看護師)	

## 1. 教授概要

1. 歴史的背景から地域保健医療福祉とその中に位置づく地域看護・在宅看護の変遷と現状、在宅看護の目的・機能、看護の継続などの概念を教授する
2. 地域における看護活動（保健行政と活動・訪問看護・保健福祉施設での看護）の理論を教授する
3. 対象となる家族の形態・機能の特徴を知り、家族看護の必要性を教授する。

## 2. 授業計画

1. 日本の在宅看護の歴史と現状
2. 在宅ケアと在宅看護
3. 在宅看護の倫理と基本理念
4. 在宅ケアを支える制度と在宅療養を支える看護
5. 家族の機能と家族看護

3. 評価方法 出席状況、授業態度、課題レポート、筆記試験などを総合して評価する

4. テキスト 「系統看護学講座」 在宅看護論 医学書院

# 平成30年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：平成30年4月1日  
至：平成31年3月31日

評価基準日 平成31年4月1日

学校法人栗岡学園  
阪奈中央看護専門学校

## 学校関係者評価 評価委員

(敬称略・五十音順)

委員長 川口 正一郎

委員 大原 敏敬

委員 河原 勲

委員 酒井 真紀

委員 谷川 優香

委員 前原 園代

委員 宮野 博

## 評価項目の達成および取組状況

1 教育

2 施設・設備

3 学生サービス

4 教育面などでの特筆すべき取り組み

自己評価回答責任者：

副校長 青木 千鶴香

副校長補佐 森本 美佐

看護学科教務主任 大池 秀子

准看護科教務主任 末廣 則子

# 教育分野 看護

## 1 教 育

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	○教育理念、教育目標を土台とし、教育目標を示し、カリキュラム構成を行っている。	○教員への周知は行っている。 夏期にカリキュラム改正に向けて、目標の見直し検討を行った。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○引き続きカリキュラム改正に向けての教育内容の検討を行う。 ○教員に対して、より一層の教育目標の理解・共有を図る。	
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	○コミュニケーション力や基礎看護技術も含め、看護実践能力を強化できるように取り組んでいる。実習で抑えきれない点の DVD の充実をはかった。 ○准看護師の職場ニーズの把握に努めているが、3月まで決定に至らない場合もある。	○指導者会等で実習施設と意見交換を行い、カリキュラム内容にも反映しつつあるが十分とは言えない。 ○准看護師に限っては、徐々に限定されてきている。 ○卒業生対象のカリキュラム評価をしていないため、ニーズの反映について評価ができない	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○統合実習だけでなく、現場の状況を授業や技術指導にも取り入れたり、DVDを活用するなど、今後もギャップが少なくなるように努力していく。 ○准看護師の資格に留まらず、将来的には看護師の資格取得を学生に勧めていく。 ○准看護科のカリキュラムに看護過程が含まれないため、就職が限定される場合がある。関連病院と話し合いをしておく必要がある。	河原委員：在学中に、卒後も勉強し続けられるような仕掛けを作っておられるか。 (准看末廣) 同窓会での勉強会を年1回開催している。 (看護大池) 3年生の実習終了後、ケーススタディの発表をしている。これにより、卒後の新人教育にスムーズに入っていける。就職後、1年目、2年目にケーススタディ、3年目、4年目には看護研究の発表を行うことが多く、そこにもうまく繋いで行ける。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	○基礎から応用、統合へと段階的に進められるよう、計画を立て実施できている ○非常勤講師の授業が優先となるため、実習担当教員の調整が難しい。 ○年度をまたぐ教科が1~2科目出る。 ○カリキュラム調整が難しく、終講試験が入りきらない現状がある	○学習進度について、実習との兼ね合いも考え、見直しを行っている。 ○疾病論での非常勤講師の配置が難しい。また、年間授業計画を立てる際にも、非常勤講師・教員・実習との調整が非常に難しい。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○今後も引き続き進度調整を行い、講師依頼の時期なども検討していく。	

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	○作成している。内容も、教員・学生双方が分かるように明示しているが、すべての配布には至っていない。授業内容は学生便覧に明記している。	○常勤教員の担当科目は年度ごとに見直しを行っているが、非常勤講師の担当科目についての見直しができていない。 ○成人看護学についてはマトリックスを作成、見直しを図り活用している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○カリキュラム改正時期に合わせて、内容を再検討し、学生への冊子配布につなげる。 ○准看護科も学生への配布用冊子を作成中である	
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	○前後期終了時、問題提起があった場合などに、教務会議で時間数も含め見直しを行っている。	○見直しを行っているが、時間が十分に取れず、前年度の経験で対応している場合もある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○カリキュラム改訂を見据え、今後の動向や情報を元に、教務会議等で見直しを行っていく。	
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	○学校の教育目標や教科の内容に合わせて、学生により分かりやすいと考えられるテキストを採択している。 ○講義での使いやすさや講師の意見も参考にしている。	○すべてのテキストが活用されているとは言えない。また、出版社によりセット購入する場合がある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○試験対策を踏まえ、採用している教科書以外の教科書を、副読本として配置し、活用の仕方を学生に指導している。 ○購入したテキストを十分活用する ○カリキュラム改訂や新刊本・改訂本など注意深く情報を得て、今後も教務会議等で見直しを行っていく。	
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	○通年授業では終講時だけでなく、複数回試験を行っている。評価は終講試験だけでなく、課題や実技などを踏まえ、担当教員が認めた方法で行っている。成績不良者に対しては、学生や保護者との面談機会を設けている。 ○実習評価は評価表に沿って、教員及び実習指導者が合議して評価している。また、教務会でも討議し決定している。	○中間に試験があることにより、学生に勉強の必要性を意識化させることが出来ており、退学・休学を最小限に抑えている。 ○実習施設の指導者により実習評価に差がみられることもある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○成績評価について、ベースとなる学習を教員間で行なっていく。 ○均質的な実習評価を目指し、実習調整者を中心とした協議が必要である。	

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	<p>○学生の理解度に合わせて、各教員の判断で授業形態や授業方法を選択している。非常勤講師については、担任が打ち合わせをしている。また各講師と担任とが話し合い、問題を早期解決すべく指導している。</p> <p>○非常勤講師への授業アンケートの一部開示を行っている。</p>	<p>○学生アンケートに、一部の授業方法への不満が記載されていた。</p> <p>○非常勤教員も、アンケート結果を授業改善の参考にしていく。</p> <p>○臨地実習の指導などで、授業方法等について研究する時間がとれない。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○</p>	<p>○研究授業や公開授業などを行い、教員間でも検討していく。</p> <p>○両学科とも、常勤教員へのアンケート開示を目指したい。</p>	<p>前原委員：学生指導が朝晩の実技練習や試験対策の委員会活動など幅広く、教員が熱心に指導をしている。どのような対応をしているのか。</p> <p>（看護大池）社会人より新卒の入学者が多く、家庭によっても異なるが、体調管理など含め自分の事が自分でできるトレーニングが不十分。総時間数の1/3を占める実習では「報告・連絡・相談」が必要不可欠であり、そういった教育もしている。指導の成果もあり、社会に出た卒業生は頑張っている。学生と教員の距離が近く、距離感を大事にしている。他校では、本校よりも厳しく指導する所や、大学の様に担任制をとらず自主性に任せる所など様々ある。</p> <p>（副校長青木）学校理事長の方針で、学生のプライベートの部分までケアするようにしている。何かあったときに学生、家庭、学校の三者で話し合うようにしている。</p>

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	<p>○入学前に事前学習テキストを配布し、入学後に基礎学力試験を行っている。</p> <p>○国家試験対策では、教員と学生による国家試験対策委員会を発足させた。例年の補習対策はもとより、各学年委員会が自主的に決定した対策を実行した。</p> <p>○資格試験対策においても、担任を中心に強化学習などの対策を行った。</p> <p>○月1回、土曜日に自習のための図書室解放を実施した。</p> <p>○成績不良者に対する夏期休暇中の補習、長期休暇中の課題学習を実施した。</p>	<p>○国家試験対策委員会については、結果をもとに分析中であるが、各委員からの報告ではよい評価を得られた。</p> <p>○学生も、主体的に国家試験対策に関わっている</p> <p>○在学期間を、有意義に学習に集中する期間であることを学生に対して指導している。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 ふ 不</p> <p>← つ → 十</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○国家試験対策委員会については、「ナースになるぞ委員会」を発足し1年生2年生3年生が担当教員とともに定期的に会を開き、企画・運営している。</p> <p>○問題がある場合はその都度教務会で協議する。</p> <p>○今後も学生が主体的に関われるよう工夫していきたい</p>	
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	<p>○担任を中心に、看護学生としてのマナー、身だしなみ等、その都度指導している。しかし、歩道に広がって歩く等、外部からの指摘が複数回あった。</p>	<p>○全教員が常時指導を行っているが、行動に変容のない学生もいる。</p> <p>○学内のみならず学外での行動についても指導が必要である。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 ふ 不</p> <p>← つ → 十</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○今後も、その都度指導していく。</p> <p>○マナー・倫理観の学習を深める必要がある。</p>	
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	<p>○各教員に、専門領域に関する学会や研修会への参加を呼び掛け、年2回の研修会参加を促せた。だが実習や講義等で研修に参加しにくい状況であり、研究も同様に時間的余裕がなく実施できていない。</p>	<p>○研修に参加した教員に、会議での報告や資料の回覧等行ってもらっている。</p> <p>○新しい教育方法について学ぶ機会があり、各教員積極的に取り入れている。○実習指導での担当学生数が非常に多く負担が大きいためか、教育方法について学ぶ姿勢が不足している教員もいる。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 ふ 不</p> <p>← つ → 十</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○教員の自己及び相互研鑽のためにも、研修に参加できるような体制作りが必要である。今後も研修会参加した教員には、伝達講習を行ってほしい。</p> <p>○教員として授業内容の吟味・相談などを出来る環境作りが必要。</p>	

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	○授業評価や卒業時アンケートを行い、その結果を受けて各教員が授業内容や方法改善に取り組んでいる。	○教員自身は結果を受け次年度に活かすよう、前向きに取り組んでいる。検討を要する場合は教務会で協議をしている。 ○非常勤講師に対しては、授業評価が十分に生かされていない。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○評価の結果報告は非常勤講師にも報告し、次回の講義内容について相談する。	川口委員長：講師として講義をしており、学生が授業に満足しているのか心配している。アンケートはもらっているが、授業の理解度を測る指標がほしい。学生の成績向上に役立てられれば。 宮野委員：弊社では20年に渡って、業者に委託するなどして授業評価を行っている。評価は点数だけでなく生徒のコメントもあり、データはすべての教員に渡す。授業の改善や教科の中で議論するなどフィードバックに役立っている。 川口：学生の満足度は国家試験や資格試験、入学者増にもつながるのでは

【分野全般に係る委員からの指摘事項】

大原委員：入学者はどういった選考基準で選んでいるのか

（准看護科末廣）准看護科の志願者には、高校卒業後時間が経過している社会人の学生が多いので、出身学校の偏差値は重視していない。入試は、学科試験の合格者のみ面接試験を受ける。自分の意見がきちんとと言えるかなど、面接試験を重視している。

（看護学科大池）指定校・公募制・社会人・一般入試で選考基準が異なる。指定校・公募制入試は現役学生が多いため、調査書の内容を重視。面接ではコミュニケーション能力を見ている。看護学生には、学力だけでなく高度なコミュニケーション能力が必要であるため、面接を非常に重視している。

前原委員：学生指導が多岐に渡ると、職員の負担が大きい。

（看護）朝晩サービス残業になってしまう。図書室での自習にも教員が付き添う。

（准看）准看護科は年齢層が高く、自主的に勉強できる学生が多い。18-20歳の学生は、こちらから働きかけないと学習が定着しない。

川口委員長：学生の背景も様々であり、教員に負担がかかってしまう。負担が功を奏しているか、最終的には国家試験の合格率等で判断という事で良いか。

大原委員：卒業生の特長は？

谷川委員：直接は関わっていないが、年齢層は高めの方が多く、新人で入職しても臨機応変に対応されている印象。関連病院への就職が減っているが。

（看護）年度によってばらつきがある。

谷川委員：実習以外の部分でも、病院と学校がつながりを作っていないと、就職率の上昇に結びついていかない。

大原委員：看護の専門職者が教育の現場に入るということで、教育への対応は手探りなのは。ベテラン教員と新人教員との間での情報の伝達方法は。  
 (准看) 新人教員は、8ヶ月の教員講習会に参加するようにしている。講習会で、教育のベースとなる物を身に付け、講習会で得た知識を学校で共有してもらおう。ベースや目的は同じなので共有はしやすい。  
 (看護) 週1回教務会を開催し、主に実習について課題の報告、学年ごとの課題の報告を行っている。そこで議論し、意見をもらいフィードバックしている。またそれぞれが研修に行った際も、必ず教務会で内容を報告している。教員ごとに指導内容が異なると学生の不利益になるため、全員が同じ考えで教育するようにしている。

## 2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	○設置基準に基づいている。 ○トイレを洋式に改修した。 ○学生更衣室に冷暖房がない。 ○面談スペースが少なく、利用希望が重なることがある。	○洋式トイレに変わり学生から好評。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○学生へのトイレ掃除の指導が難しい。 ○1階の障がい者トイレを多目的トイレとする。 ○自転車置き場に屋根を設置したい	
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか(有効に活用されていますか)	○放課後の自主学習など学生の活用度は高い。 ○図書は専門分野ごとにある程度充実しているが、古いものも多い。	○学生や卒業生が使用しやすい環境である。 ○所在不明な図書が出ないよう、書庫を時間利用としている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○新書の購入の推進 ○図書室のパソコンの活用 ○図書貸出しシステムの刷新	河原委員：文献検索は学校でできるのか？ (看護) 図書室の本を検索して、ケーススタディに活用している。 (准看) カリキュラムにはないが、実習のまとめの発表をしている。 河原委員：こうしたことはプレゼンの練習にもなっていると思う。 (副校長) 卒業生がよく学校に来る。関連病院の看護師の方も、研究発表の資料作りで来校される。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	○基準に規定された通りで適切である。年に1回実習室の備品点検を行っている。	○必要に応じ、物品購入を行っているが、15年目を迎え、買い替えが必要となってきている。 ○タオル・シーツ・寝衣などの汚れ・破れが目立つ。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○段階を追って、新規購入が必要。 ○備品点検時に備え、新規物品購入時に、番号と年月日を入れる。	

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか(有効に活用していますか)	○各教室にパソコン等の情報機器を設置し、数は充実しているが、古くなり故障やトラブルがある。	○パソコン室のプリンターが1台しかなく、授業等で支障をきたしている。ソフトウェアのバージョンが古く、DVD視聴やPowerPointの読み込みに難がある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○担当の教員の要望などを踏まえて、対応していきたい。また、常に最新の状態を保てるよう、定期的に点検していきたい。	
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか(有効に活用されていますか)	○学園の学生寮は設置されているが、本校からの新規入寮は受け入れていない。	○すでに入居している学生は、管理規則を遵守している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○学生確保のためにも、新規入寮再開を希望する。	
6. 体育館や運動場などを保有していますか(有効に活用されていますか)	○関連施設の体育館を年に数回授業やレクリエーションで利用している。	○関連施設のバスで送迎していただけるため、利用しやすい。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○今後も積極的に体育館を使用していきたい。	
【分野全般に係る委員からの指摘事項】					

### 3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	○担任1名、副担任2名で学生指導を行い、問題がある学生については教務会議で協議している。 ○必要な場合は教務主任と担任が保護者と面談し、解決に努める。	○担任を中心に、親身に学生対応ができています。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○指導が必要な学生が増えており、教員の対応時間が長くなるため、他の業務に支障をきたさないよう業務分担が必要である。また、担任の役割・考え方を共有することが大切である。	

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
2. 学生に対してカウンセリング(心理相談)を行っていますか	○教員が学生と個別に対応していることもあるが、臨床心理士と連携を取り、相談しながら対応している。必要時、臨床心理士と定期面談も行ってもらおう。	○臨床心理士が授業も担当してくださっており、学生にとっては安心できる環境である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○カウンセラーの常駐が(少なくとも週2回)望ましい。	
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	○ラウンジがあるが、3クラス重なりと狭い。 ○グループワークや自習のスペースが不足している。	○歓談できるスペースが少ない。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○ラウンジに机と椅子を追加した。 ○スペースに限りがあるため、効率の良いラウンジの使い方を検討する必要がある。	
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	○弁当屋、パン屋の販売があり、学生はラウンジや教室で食事をとっている。売店はない。	○学生数に比べてラウンジが狭いため、教室での食事となる。 ○弁当やパンの販売は好評で、学生もよく利用している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○関連病院の食堂利用についても検討したい。	
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	○関連医療法人の奨学金制度があり、1クラスに6~7人利用している。	○給付型奨学金の要件が厳しく、関連施設への就職に繋がらない恐れがある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○完全給付型奨学金制度への変更が望まれる。	
6. その他	○京阪寝屋川市駅から JR 忍ヶ丘駅経由で、学園の無料スクールバスが運行されている。	○最寄駅である近鉄生駒駅からのスクールバスがない。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○近鉄生駒駅からのスクールバスを検討していく。	
【分野全般に係る委員からの指摘事項】					

## 4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

- 一人でも多く関連病院に就職して欲しいと願っている。医療法人和幸会と学校法人栗岡学園が連携し、目的が達成できるよう協力していきたい。
- 和幸会とは、図書室の開放、診療用具・実習室の貸借において協力、関連施設合同会議などで情報交換を行っている。
- 教員同士、学生・業務内容・看護技術に関すること等について話し合い、研修し、お互い質を高めたいと考えている。
- 学生に対して効果的な教育支援をしていくために、定期的な授業内容の見直しや、全教員による自己点検自己評価の結果を出した。
- 入学志願者の減少が著しい。学校の強み・弱みを検討し、魅力ある専門学校作りをしていかねばならない。
- 15年前とは学生の生活習慣や経済状況も変化している。より時代に合った学校整備（自転車置き場の屋根など）を検討していく必要がある。
- 学生が自ら学ぶことを支援するために、学習環境を整えることが大切である（物的・人的環境、特に教職員）

### 【分野全般に係る委員からの指摘事項】

川口：関連病院への就職が増えない要因や、どのようにすればよいか考えていかねばならない。遠方から入学した学生もここへ残る、という位の魅力を、病院も学校もお互いに作っていかねばならない。その辺りがより具体的になれば。